

人のためならず

所沢市立中央中学校

三年 伊藤 正義

中学校の職場体験授業で、母校ではない小学校に三日間お世話になった。その小学校は自宅から自転車でも三十分かかる場所であり、日常あまり自転車に乗らない自分としては不安があった。実際には事前に自転車で往復する練習を繰り返して、無事に三日間を乗り切ることができたのだが、気付けたことがいくつもあった。

まずは普段バスや自動車で問題なく通っている道路でも、振動が直接身体に響く自転車だと、舗道のわずかな凹凸や傾きが、大きな衝撃となつて返ってくるのだ。以前、幼い従弟をベビーカーに乗せて散歩した時、タイヤが地面に引っかかり、まっすぐ進むのが難しかったことを思い出した。自分ひとりなら難なく歩ける道も立場が変われば、あまりにでこぼこしていたのだ。

そして自転車は基本的に車道を走るのだが、実際にそうすると危険と隣り合わせだった。歩行者道と自転車道が分かれている大きめの歩道の有り難さが身に染みした。

どんな立場の人でも安心して使える、快適な道路の整備には、いったいどのくらいの費用がかかるのだろう。通学路をはじめ、普段どの道路を通っても、どこかで工事を行っているのを見かけ

る。高度経済成長期に造られた道路や、その地下にある上下水道施設はおおむね更新の時期を迎えていて、今後もさらなる費用がかかるという。これらの工事を支えているのが税金なのだと思うと、普段の買い物で納める消費税くらいしか縁がないと感じていた僕でも、有形無形に税の恩恵を受けているとわかった。

素敵な気付きもあった。自転車で三十分移動している間にも、街並みはどんどん変化していくことだ。学校、住宅街、神社仏閣、田畑、商店など。さまざまな環境で、人々が働いたり学んだりの日常生活を送っている。僕の暮らす街はとても表情が豊かだと思えた。

この豊かで平和な日常生活を支えているのも税金なのだ。例を挙げれば、僕の通う中学校にはエアコンが設置され、夏はプール授業も行われる。考えてみれば、とても贅沢なことではないか。義務教育ひとつとっても、僕が生まれてから現在に至るまで、どれだけの税金のお世話になったことか。そして一人前になって社会に出るまでも、どれだけの社会的費用がかかることか。私立高校の授業料の実質無償化も予定されており、進学の見込みが広がったと喜んではいないが、それにも莫大な税金が必要だ。現在、一生懸命に働いて税金を納めてくれている親世代から、僕たち青少年の未来への投資なのだと思える。税の恩恵は両親も、祖父母たちも受けてきたし、現在も受けている。退職しても受けるだろう。じきに僕も納税者となる。情けは人のためならずというが、納税もまた人のためならず、だと思ふ。僕や僕の大切な人たちの生活を守るために、正しく納税していきたい。